

できました！ 「長野県の気候変動とその影響」 パンフレット

豪雨による洪水や土砂崩壊の発生、気温の上昇にともなう農作物への影響や熱中症の発症など、近年こうした気候変動による影響が日本各地で起こっています。これから気候変動がさらに進み、その影響は今以上に大きくなると予測されています。このため、気候変動による影響の被害を最小限に抑えるため対策である「適応策」が、今求められています。

では、どのような適応策を行えばよいのでしょうか。そのためにはまず、気候変動によって地域にどのような影響が生じるかを明らかにする必要があります。文部科学省では、地域の気候変動影響を評価し、適応策を促進するための研究プロジェクト（気候変動適応技術社会実装プログラム；SI-CAT）を、2015年度から5年間かけて実施しました。当研究所は



<健康>

熱中症

現在の熱中症リスクを1とした場合、21世紀末における熱中症リスクは、RCP2.6シナリオで約2倍、RCP8.5シナリオでは約5倍になると予測されました。



<産業>

スキー産業

温暖化は自然環境資源を活かしたレクリエーション・サービス産業への影響をもたらすと考えられます。県内スキー産業において、温暖化による来客者数減少がもたらす経済的被害額を推計した結果、21世紀末には北アルプスや北信、上田、佐久、諏訪などのスキー場の集まる地域において、大きな被害が見込まれました。



<農業>

水稲：収量・品質

今後、県内全域で収量は増収するものの、21世紀末には、標高の低い北部の一部地域で減収が予測されています。標高の低い盆地の底部では品質低下が現れはじめ、21世紀末には、山間部を除く多くの地域で深刻な品質低下が予測されています。



リンゴ

将来、長野地域の一部および天竜川沿いでは、高温による生育不適地となることが予測されています。さらに21世紀末には、平地の大部分がほぼ生育不適地となることが予測されています。



<林業>

松枯れ

松枯れでは、リスク域がさらに広がると予測されています。わずかに残る低リスク域が分断化されたり、逆にそれまでは離れていた高リスク域が繋がることが予想され、松枯れの防除がより難しくなる可能性があります。



<水環境・水資源>

流量

千曲川流域における流量の将来予測によると、現在4月前後に現れる流量のピークが減少するだけでなく、水資源として流域に蓄えられる積雪量も64%減少することが予測されました。



これに参加して、多くの国の研究機関や大学等の協力を得ながら、長野県内の近未来（2031年～2050年の平均）と21世紀末（2081年～2100年の平均）における気温や降水量、積雪深などの将来予測を行うとともに、農業、災害、健康、生態系など7つ分野における気候変動影響の評価を行いました。

その研究成果を簡潔にまとめたのが「長野県の気候変動とその影響」パンフレット（A4版、カラー32ページ）です。現時点での最新の研究成果が満載です。

なにが載っているの？

左記は主な例です。この他、生態系（ライチョウやブナ、タケ、イワナなど）、国民生活（生物季節や御神渡り、市田柿など）、自然災害（洪水と斜面崩壊）の影響も載っています。

パンフレットは2020年3月に発行し、現在は信州気候変動適応センターのホームページ（<https://lccac-shinshu.org>）からダウンロードすることができます。気候変動に関するお仕事をされている方、関心のある方々に手にとっていただき、ご活用いただければうれしいです。（浜田 崇／自然環境部）

